

書道口課題② 仮名の書の古典に学ぼう 高野切第一種① (教科書 68 ～ 69 ページ)

目標

- * 高野切第一種を通して、連綿(文字のつらなり)に慣れる。
- * 変本(仮名をみつけ、平安時代の書を読むことができる)。

今回は、平仮名と変体仮名の表をまとめたので、今回は連綿になれましょう。以下のワークを教科書を見ながらしましょ

う。

ワーク1 次の①～③の連綿をリズムを感じながら硬筆で書き、()に読みと、変体仮名の場合は字源も記入しましょう。
教科書 68 ページ右、『読み』の中で平仮名の右横に書いている漢字が、変体仮名の字源です。

二行目

四行目

五行目

①

②

③

()

()

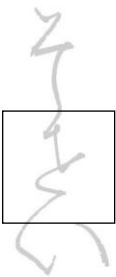
()

()

ワーク2 次の図版の中には、(例)のような「変体仮名」があと10文字あります。その変体仮名を□で囲み、登場する順に左の表に読みと字源を記入しましょう。

読み せ 字源 世

(例)



読み	読み	字源	字源
読み	読み	字源	字源
読み	読み	字源	字源
読み	読み	字源	字源
読み	読み	字源	字源

ワーク3 次の文章の () に当てはまる語句を記入しましょう。

- ・『(ア) (イ) 第一種の書風で、麻紙に雲母砂子を撒いた(ウ) (エ) 一字の(エ) (イ) 時代の古筆の中でもっとも格調の高い美しさを示す優品として尊重されています。

- * 提出方法は、後日連絡します。
- * 用紙については、この用紙と同じ形式であれば何を使ってもかまいません。